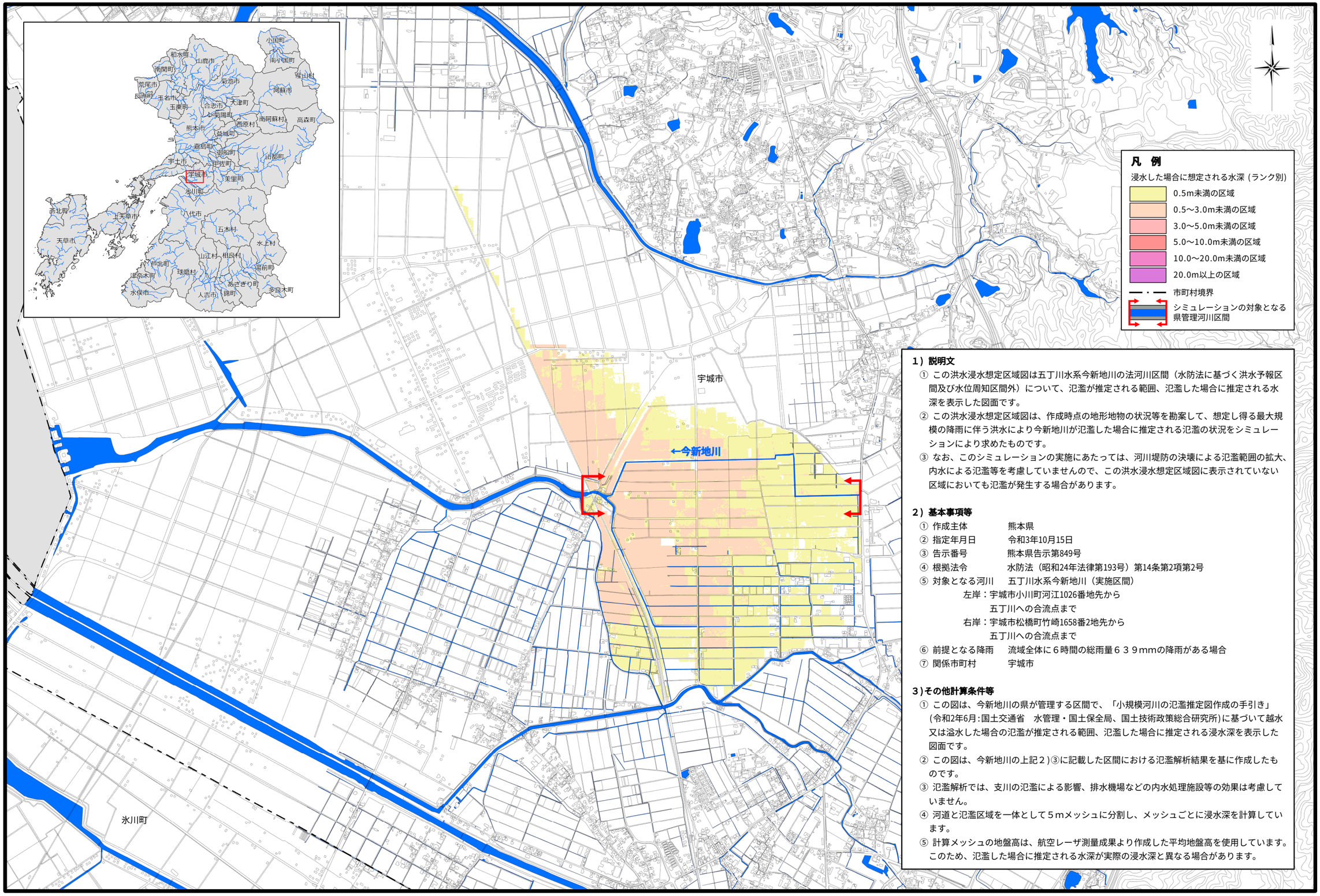
五丁川水系今新地川　洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



1）説明文

① この洪水浸水想定区域図は五丁川水系今新地川の法河川区間（水防法に基づく洪水予報区間及び水位周知区間外）について、氾濫が推定される範囲、氾濫した場合に推定される水深を表示した図面です。

② この洪水浸水想定区域図は、作成時点の地形地物の状況等を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により今新地川が氾濫した場合に推定される氾濫の状況をシミュレーションにより求めたものです。

③ なお、このシミュレーションの実施にあたっては、河川堤防の決壊による氾濫範囲の拡大、内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域図に表示されていない区域においても氾濫が発生する場合があります。

2）基本事項等

① 作成主体　熊本県
② 指定年月日　令和3年10月15日
③ 告示番号　熊本県告示第849号
④ 根拠法令　水防法（昭和24年法律第193号）第14条第2項第2号
⑤ 対象となる河川　五丁川水系今新地川（実施区間）
　左岸：宇城市小川町河江1026番地先から
　　五丁川への合流点まで
　右岸：宇城市松橋町竹崎1658番2地先から
　　五丁川への合流点まで
⑥ 前提となる降雨　流域全体に６時間の総雨量６３９mmの降雨がある場合
⑦ 関係市町村　宇城市

3）その他計算条件等

① この図は、今新地川の県が管理する区間で、「小規模河川の氾濫推定図作成の手引き」(令和2年6月:国土交通省　水管理・国土保全局、国土技術政策総合研究所)に基づいて越水又は溢水した場合の氾濫が推定される範囲、氾濫した場合に推定される浸水深を表示した図面です。

② この図は、今新地川の上記２)③に記載した区間における氾濫解析結果を基に作成したものです。

③ 氾濫解析では、支川の氾濫による影響、排水機場などの内水処理施設等の効果は考慮していません。

④ 河道と氾濫区域を一体として５mメッシュに分割し、メッシュごとに浸水深を計算しています。

⑤ 計算メッシュの地盤高は、航空レーザ測量成果より作成した平均地盤高を使用しています。このため、氾濫した場合に推定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

500　0　500　1000　2000
1：20,000

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 3JHs 42」